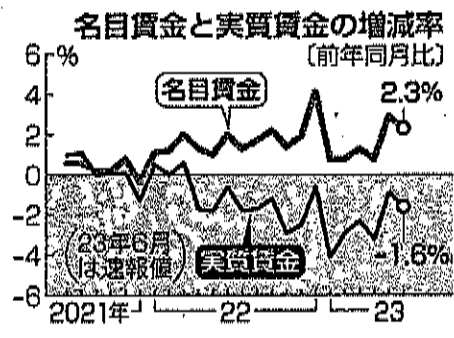


# 6月実質賃金 1.6%減

## 物価高で15カ月連続マイナス

厚生労働省が8日発表した6月の毎月勤労統計調査(速報、従業員5人以上)によると、現金給与総額(名目賃金)に物価の変動



を反映させた実質賃金は、前年同月比1.6%減となりました。名目賃金は伸びたものの、物価高騰の影響が大きく、15カ月連続で前年を下回りました。

6月の名目賃金は、労働者1人当たり平均で2.3%増の4万2040円でした。このうち基本給が中心の「所定内給与」が1.4%増、残業代を含む「所定外給与」が2.3%増えました。賞与など「特別に支払われた給与」は3.5%増でした。

一方、実質賃金の算出に

用いる同月の消費者物価指数(持ち家の帰属家賃を除く総合)は3.9%上昇。調理食品や洗濯用洗剤、携帯電話機などの価格が上昇しました。

名目賃金を就業形態別にみると、正社員ら一般労働者が2.7%増の62万5235円。パートタイム労働者は1.8%増の11万1389円でした。

1人平均の総実労働時間は、0.1%増の142.4時間。所定内労働時間は0.2%増え、所定外は前年同月と同水準でした。